



平成28年度
看護学生のための
地域医療体験研修 報告集

研修日 平成28年8月1日（月）～8月2日（火）

福島県会津保健福祉事務所
福島県南会津保健福祉事務所

目 次

1	実施要項	1
2	スケジュール	2
3	特別養護老人ホーム桐寿苑見学及び介護体験	3
4	通院患者へのインタビュー、看護職者との意見交換、 県立宮下病院見学	5
5	学生によるディスカッション	7
6	地域の看護職者との懇談	8
7	只見町国民健康保険朝日診療所の概要説明と見学等	9
8	研修のまとめ、発表	11
9	参加者の体験談	13

1 実施要項

1 目的

地域医療に関心を持つ看護学生に対して、地域医療の現場見学や看護職者等との意見交換、また、地域の文化やそこで暮らす住民と直接触れ合う場を提供することにより、過疎・中山間地域における地域医療や地域の現状について理解を深めてもらうことを目的とする。

2 開催日

平成28年8月1日（月）～8月2日（火）1泊2日

3 対象者

会津管内の看護学校に在籍し、地域医療に関心を持つ学生（高校生を除く）

4 参加者

10名（竹田看護学校 3名、仁愛高校第一専攻科 1名、会津准看護高等専修学校 2名、仁愛看護福祉専門学校 4名）

5 内容

（1）地域医療を担う医療現場（高齢者施設含む）を知る

奥会津地域の医療現場を見学し、地域医療への理解を深める。

〔見学先〕福島県立宮下病院、特別養護老人ホーム桐寿苑（三島町）

只見町国民健康保険朝日診療所（只見町）

（2）地域で働く看護職者等の実情を知る

看護職者等との意見交換や懇談を通じて、地域で働く看護職者等の生の声を聴くことにより、地域医療を支える看護職者への理解を深める。

（3）地域で生活する人の実情を知る

通院患者との面接により、疾患を持ちながら地域で生活している人々への理解を深める。

6 宿泊場所 昭和温泉しらかば荘

（住所：昭和村大字野尻字廻り戸 1178 電話(0241)57-2585）

2 スケジュール

月日	時間	行程	場所
8月1日 (月)	9:30	会津保健福祉事務所 集合	9:45 出発
	9:45～10:45	移動 (会津若松市→三島町)	
	10:45～14:00	特別養護老人ホーム「桐寿苑」見学 施設の概要説明、入所者との交流及び 食事介助などを体験	「桐寿苑」(三島町)
	14:00～14:30	移動及び休憩	
	14:30～16:30	院長先生のお話 通院患者へのインタビュー、 看護職者との意見交換、 病院見学	県立宮下病院(三島町)
	16:30～17:30	移動 (三島町→昭和村)	
	17:30～18:30	学生によるディスカッション	昭和村温泉しらかば荘
	18:30～20:00	地域の看護職者等との懇談(夕食)	↓
8月2日 (火)	7:00～ 8:00	朝食・準備	昭和村温泉しらかば荘
	8:00～ 9:10	移動(昭和村→只見町)	
	9:10～12:00	診療所の概要説明 外来にて患者と懇談、診療所見学	只見町国保朝日診療所
	12:00～13:00	昼食(医師と会食)	↓
	13:00～14:30	研修まとめ(グループワーク、発表)	↓
	14:30～16:30	移動 (只見町→会津若松市)	会津保福 16:30着
	16:30	会津保健福祉事務所 解散	



3 特別養護老人ホーム桐寿苑見学 及び介護体験

- 【日時】 8月1日(月) 10:45~14:00
【場所】 特別養護老人ホーム桐寿苑(所在地:三島町大字宮下字坂ノ下659)
【目的】 施設の概要説明及び見学を通して、老年人口の割合が高い地域における老人福祉施設の役割を理解する。

□ 施設の概要説明(馬場施設長)

- 平成12年10月1日開所
- 入所50床、ショートステイ12床。
- 今年4月から食事を自施設で提供し始めたことにより、一人ひとりに合わせたメニューに対応している。
- 四季の行事を取り入れながら運営。8月は、家族も呼んで夏祭りを実施。
- 施設周辺には、町高齢者生活福祉センターや高齢者住宅(8部屋)、デイサービス、温泉が立地している。



□ 施設内見学(熊谷副主任介護支援専門員)

- 施設内の共有スペース、居室、浴室等を見学した。
- 日ごろデイサービス利用者に対しては、家でやっていることを施設でもできるように対応している。
- 看護師は、入浴時体重測定や処置を実施。その他、経管栄養や血液検査など随時対応している。



□ 入所者との交流及び介護体験

- ・昼食介助をしながら、入所者とコミュニケーションを図る。



□ 学生との質疑応答

〔出席者〕馬場施設長、熊谷副主任介護支援専門員、鈴木生活支援相談員、三島町地域包括支援センター片山看護師

〔Q〕大変なことは。

→利用者の思いを充分理解してあげることが難しいこと。

〔Q〕褥瘡のある入所者はいますか。

→褥瘡患者は数人いる。身体を動かして、食事が食べられるようになると褥瘡が治る。



〔Q〕この地域の良いところ

→地区が家族みたいなもの。動けなくなったから助けてと地域に頼れる。

〔Q〕何故、施設の看護師になったのか。

→看取りのために看護師になった。一人で亡くなっていくのは切ない。見送る看護師になってもよい。



【参加者の声（事後アンケートより）】

- ・桐寿苑さんを見学させていただくことで、三島の特色も理解することができました。看護師さんが言っていた“看取るために看護師になった”という言葉을聞いて、疾患を治すためだけではなく、安心して最期を迎えるための看護師も必要なんだと強く感じました。
- ・三島町の地域性が理解できました。利用者の方々を本当に家族のように思い、日々お仕事をされていることが感じられました。また、食事介護を初めて体験しましたが、夏休み明けの技術テストに役立つ良い体験になりました。ありがとうございます。
- ・桐寿苑さんでは、利用者さんに合わせた食事を提供し、利用者さんも自主的に俳句を作ったりしていることがわかりました。また、三島町の住民の多くが年配の方で、そのような状況の中で支え合っているということを知り、自分で生活することができなくなった時に、桐寿苑さんの存在は三島町の方々にとって、とても大切だと思いました。

4 通院患者へのインタビュー、看護職者との 意見交換、県立宮下病院見学

- 【日時】 8月1日（月） 14：30～16：30
【場所】 福島県立宮下病院（所在地：三島町大字宮下字水尻 1150）
【目的】 ①通院患者へのインタビューを通して、へき地で医療を受ける人への理解を深める。
②病院の概要説明及び施設見学を通して、へき地病院の持つ役割について知識を深める。
③地域医療に従事する看護職者から、地域医療に対する考え方や体験談などを聞き、意見交換を行い、地域医療への理解を深める。

□ 浅野院長先生のお話

- ・宮下病院は、若松市内から40Km、車で1時間かかる。
- ・柳津、三島、金山、昭和の3町1村が診療圏。診療所は3か所（柳津・金山・昭和）で入院設備はなし。
- ・地域の人と協力し合って、健康を診ていく。多いのは尿路感染、心臓・呼吸器疾患等である。
- ・高齢者の急性増悪で入院、外来は4町村の65歳以上の高齢者のうち、50%位が当院を受診。医療を要する高血圧、腎疾患、呼吸器疾患、糖尿病の悪化を防止し、予防と健康長寿の増進を目指す。
- ・診療所への診療応援を毎週しており、普段からコミュニケーションをとり、患者をスムーズに受け入れている。
- ・特養「桐寿苑」入所者の健康管理も実施。
- ・訪問診療及び看護は、数としては少ないが、受診不可の患者に実施している。
- ・健康に関する出前講座は、要望により地域で実施している。



□ 通院患者へのインタビュー

- ・通院患者5名に対し、学生が2名ずつインタビューを行った。

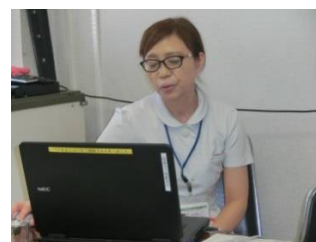


【参加者の声（事後アンケートより）】

- ・患者さんとのインタビューで、三島町の方々はとても明るくいらっしゃるのだなと感心した。宮下病院の健康教室に参加してみたいなと思った。
- ・患者さんも看護師さんも話しやすく、いろいろな質問に嫌な顔せずきちんと答えてくださったので良かったです。通院者へのインタビューで地域医療の良さを知ることができた。

□ 病院の概要説明（木村看護部長）

- ・「心ある医療」を病院理念に、高齢者の一人暮らしや高齢世帯が多い地域であるため、病院バスを運行している。
- ・病棟看護師 18 名。固定チームナーシング、担当看護師が退院調整まで関わる。
- ・外来看護師は、外来のほか訪問看護、健康教室、出前講座、フォーレ交換（69 件／年）等を実施。
- ・待ち時間に不満が出ないのは、患者同士が友達になり、待ち時間に近況報告をしていたり、談話の時間になっているため。



□ 看護職者との意見交換

〔出席者〕 齋藤外来看護師長、押部病棟看護師長、外来鈴木看護師、佐竹看護師、下山看護師、二瓶看護師



〔Q〕 やりがいは何ですか。

→キーパーソンなし、要介護認定なしの方が入院となった場合等は、入院時から調整をしないと帰せないため、ケア会議において調整する。患者も家族もスタッフも、皆で向き合っ
て一緒にいることに、やりがいを感じる。

→寝たきり者が多いので、看護師の訪問を喜んでくれる。「ありがとう」を聞いた時、患者からの感謝の言葉をもらったとき。

〔Q〕 この地域ならではのメリットは、何ですか。

→入院だけでなく、その人の家での生活や外来での様子を理解した上で退院調整に関わることが
できる。

〔Q〕 看護師としての心がけていることは、何ですか。

→患者に寄り添える、患者の生活を豊かにできる看護師。

□ 病院内見学（齋藤外来看護師長）



【参加者の声（事後アンケートより）】

- ・宮下病院が、三島だけでなく昭和村など多くの地域にとって重要な役割を果たしていることがわかりました。また、通院患者さんへのインタビューで、現在の医療に不満はないという答えが返ってきたことに驚きました。また特養やその他多くの施設との連携がとれていることがわかりました。
- ・3町1村をカバーするために様々な工夫をされていたり、患者さん1人1人を思って看護に取り組んでいる姿を拝見できて感動しました。地域医療での訪問看護が果たす役割の重要性を知れたことは、これからの進路を決めるにあたり、とても良い機会になりました。

5 学生によるディスカッション

- 【日時】 8月1日(月) 17:30~18:30
【場所】 昭和温泉しらかば荘(所在地:昭和村大字野尻字廻り戸1178)
【目的】 下記テーマについて、参加学生間でディスカッションを行い、地域医療についての見識を深める。
【内容】 テーマ「地域における医療の現状について、気づいたこと」
(進行:会津保健福祉事務所健康福祉部 黒田主幹)

□ 学生によるディスカッション

- ・黒田主幹を座長に、ディスカッションを行った。
- ・テーマ「地域における医療の現状について、気づいたこと」について、2グループに分かれ、それぞれに気づいたことを出し合い、発表した。



〔A・Bグループの発表から〕

- ・患者や地域とのつながりが強く、距離も近いと感じた。患者の病院に対する満足度も高い。
- ・看護職が、一人ひとりの患者の全体を把握して、じっくり向き合っている。
- ・地域医療に携わる看護職は、オールマイティである必要がある。幅広い知識が必要。
- ・患者の退院後の生活も見据えた、在宅看護を常に意識して看護に当たっている。
- ・医療の提供だけでなく、予防的視点からの健康教育や指導を実施している。
- ・病院側が、通院バスの運行や訪問診療など、高齢者の多い地域の生活をカバーしながら、住民の受療行動を支援している。

【参加者の声(事後アンケートより)】

- ・話し合いを通して研修生同士仲良くなれました。A・Bと分かれたことによって、視野を広く見ることができました。
- ・自分で気づいたことを言い合い、それをグループごとに発表し、さまざまな意見を参考にすることができたので良かった。
- ・コミュニケーション能力を高めるためにとても良いと思った。
- ・皆の意見を聞く事ができ発見がありました。しかし、自分の意見を文章にして表現してしまうと、最後にまとめる時に、1枚の紙に多くの情報が入っていて、分けるのに苦労した。

6 地域の看護職者との懇談

- 【日時】 8月1日(木) 18:30~20:00
【場所】 昭和温泉しらかば荘(所在地:昭和村大字野尻字廻り戸1178)
【目的】 地域医療に従事する看護師から、地域医療に対する考え方や体験談などを聞き意見交換を行い、地域医療の見識を深める。

□ 看護職者との懇談

昭和温泉しらかば荘にて、昭和村国保診療所の今井所長と看護師2名、昭和村役場職員3名の参加をいただき、地域医療に対する考え方や体験談などを聞き、意見交換をするなど、地域医療の見識を深める時間となった。



しらかば荘大広間



司会: 永井主任主査



今井診療所長



永戸係長



栗城看護師



【参加者の声(事後アンケートより)】

- さまざまな人達とお話をする事ができ、その土地での生活や、人柄、地域医療の現状を知ることができとても良かったです。
- 皆さんが地元がとても好きで、地元へ貢献したいという気持ちを持っていることが分かった。特に地域医療に携わることは、都市部で看護師として働くよりも地域への貢献度の高いことに改めて気づかされました。
- 今後の進路について相談に乗って下さったり、今の看護の現状を聞くことができました。
- 昭和村の方々と食事をしながら話をすることで、普段昭和村に対して考えている熱い想いを聴くことができました。その他にもプライベートなお話をする事ができて良かったです。
- 私が話すのが下手だったので、皆さんから詳しく昭和村の医療や介護の状況について聞くことができなかったのが残念でした。ですが、からむし織のことや昭和村のことを聞くことができて良かったです。

7 只見町国民健康保険朝日診療所の 概要説明と見学等

- 【日 時】 8月2日(火) 9:10~12:00
【場 所】 只見町国民健康保険朝日診療所(所在地:只見町大字長浜字久保田31)
【目 的】 診療所の概要説明及び施設見学を通して、へき地診療所の持つ役割について知識を深める。

□ 診療所の概要説明(若山院長、五十嵐看護師長)

- ・有床(19床)診療所。
- ・会津若松市内の大きい病院への通院は、車で2時間と遠く負担が大きい。
- ・事故の場合、移送に2時間かかるため、状態を安定させて搬送する。
- ・訪問診療や町の学校医、町の保健事業(予防接種など)、健康教育等も実施している。
- ・CT、胃カメラの実施など、医療ニーズにできるだけ応えられるようにしている。
- ・他医療機関等との連携を大切にしている。

□ 診療所の見学

- ・若山院長の案内で、診療所内の見学を実施。
- ・廊下が広く、待合室も広々としており、明るい雰囲気あり。



□ 患者との懇談



□ 医師と会食しながら懇談(若山 隆 院長、森 冬人 医師)

学生の質問に、先生方から気さくに答えていただきました。学生からは、地域医療に携わる際に大事なこと、医師が看護師に求めること、ドクターヘリの活用、朝日診療所の設備等について質問がありました。

特に、医師が看護師に求める内容として、次のような助言がありました。



- 手技も必要だが、コミュニケーション能力が高い人がより診療には必要。
- 訪問看護のニーズに対応できるスキルがあること。
- 患者が在宅で過ごせるためのアドバイスができること。
- 多職種の立場の理解、関心をもって連携できること。難しく考えず、楽しく。
- 大きい病院より、患者との関わりが強くなる。患者と深く付き合ってください。

〇五十嵐看護師長から看護部門を中心に説明

- 以前は入院が5～6床で、外来患者が多かった。
- 地元高齢者の80%が受診。高血圧症や慢性疾患が多い。
- 急性期（心疾患や脳血管疾患）は、会津若松市へ救急隊が搬送。
- ドクターカーなどの高規格車（中央病院）の到着まで状態安定させて引き継ぐ役割を担う。多くて年間5～6件。平均2～3件。
- 消防署から当番医師へ電話が入り、医師から看護師へ連絡（夜勤は、医師1名、看護師1名で病棟と兼務している）現場で処置することもある。
- 救急隊との連携について：診療所の物品の場所共有、患者搬送の協力あり。
- 「救急の手引き」を全戸配布している。
- 診療所は、24時間体制のため、電話相談も可。「心配なら診療所に来てください」といつでも対応している。
- 「心がけていることは何か」、「看護師になって良かったことは何か」との質問に対して「平等に接すること。緊張しない関係で、身内のような安心感をもってもらう」また、「おじいちゃんたちに、ありがとう！と言われるときに、嬉しい。」との回答があった。



【参加者の声（事後アンケートより）】

- 診療所に勤める医師の方々の、これからの地域医療に対する考えを聞くことができ「なるほど、その様な考えもあるのか」と、改めて考えさせられました。診療所の方々（地域の方々も含め）皆さん本当に優しく、質問もしやすく、ありがたかったです。診療所内があたたかい雰囲気、看護師さんの手づくりの掲示物にも和みました。
- 医師の方と話し合いや、通院患者さんのインタビューや診察まで付き添わせてもらうことができ、とても良い経験になりました。実習ではできないことを経験できました。
- とてもきれいな施設であり、診療所ではなく、家にいるような感覚になった。人材不足で24時間対応できないところなど、大きな課題があるということがわかり、とても勉強になった。
- 診療所と聞いた時に、こじんまりとした施設を想像していたので、入院設備が整い、中央病院から救急のナースの方がいらっしゃっているとわかり少し驚きました。また、朝日診療所から救急車で患者さんが運ばれる時は朝日診療所で安定させて運ぶことや、町の保健事業と一緒に町とすること等がわかりました。朝日診療所は、地域と密接に関わっている施設であることが、とても良くわかりました。
- 患者さんからは、全く不安や不満が聞かれなかった。看護師さんや医師が親身になって話を傾聴したり、何とか少ない設備の中で、工夫しながら医療を提供している努力を、患者さん達は高く評価されていた。

8 研修まとめ、発表

- 【日時】 8月2日（火）13:00~14:30
【場所】 只見町国民健康保険朝日診療所（所在地：只見町大字長浜字久保田31）
【目的】 地域医療体験研修に参加して感じたこと、学んだこと等をまとめ、発表する。
【内容】 テーマ 「地域に求められる看護職とは」
（進行：会津保健福祉事務所健康福祉部 黒田主幹）

○研修のまとめ、発表

- ・黒田主幹を座長に、昨日と同じメンバーで、2つのグループに分かれ、2日間の研修を通してのまとめ、発表を行った。
- ・テーマ「地域に求められる看護職とは」



〔グループワーク〕



〔発表〕



【参加者の声（事後アンケートより）】

- ・今までずっと興味があった地域医療（特に過疎医療）について、深くまで学ぶことができました。他の看護学校に通う学生さんとも、たくさん話すことができ様々な視点から地域医療を考えることができたと思っています。
- ・前回の地域医療体験研修にも参加させていただき、今回の研修で、さらに多くのお話を聞いたり、見学させていただく事で、学びが深まりました。また、前回よりも看護師さん達のお話を聞く事ができ、患者さんとの信頼関係の深さを感じる事ができ、充実した研修になりました。

○テーマ「地域に求められる看護職とは」の発表内容は下記のとおり。

【地域に求められる看護職とは】

- ・平等に接することができる看護師
- ・患者さんに寄り添える看護師
- ・コミュニケーション能力のある看護師
- ・看護の技術をもつ
- ・患者さんに時間をかけて向き合える看護師
- ・家族のように地域のひとと付き合える看護師
- ・笑顔のある看護師
- ・地域の人々へ教育ができる看護師
- ・患者さんが安心して最期を迎えられる看護
- ・幅広い知識をもつ看護師
- ・連携のできる看護
- ・病気を予防できる看護
- ・病状が悪化しないよう維持できる看護



【その看護実現のために】

- ・幅広い知識と技術を身に付ける
- ・患者さんの立場に立って、考える
- ・患者さんを尊重して寄り添っていく
- ・思いや話を傾聴する
- ・地域の現状を知る
- ・地域に合った看護を提供する
- ・協調性を持つ
- ・日々笑顔で人に接する
- ・自分の得た知識を応用する力をもつ
- ・さまざまな方々と触れ合う
- ・誰とでも、平等に接する
- ・あきらめない心、時間をかけて患者と向き合う心をもつ
- ・周囲の方々に地域の現状を広く知ってもらう
- ・向上心を持つ



9 参加者の体験談

〔体験談①〕

私は以前から福島県内の過疎地域の医療について、とても興味がありました。医療施設や医師、看護師等の人手不足の中、なぜ医療が崩壊せずに行えているのか疑問でした。その理由の1つとして、地域の人々間、施設間で強いつながりがあることがわかりました。

現在、隣に住む人の顔、名前さえわからない中で、研修へ行った地域では、みんなが顔見知りで、家族形態、職業等、多くの事を知っています。だから、亡くなって1週間後に発見されるということは、めったにないと言います。その話を聴いて、地域の人々がお互いに支え合って、手と手を取り合って生きているんだと強く感じました。

また、特別養護老人ホームでの看護師さんが「人は大勢の人に囲まれて祝福されて生まれてくるのに、亡くなる時は1人孤独で誰にも看取られない。この様な社会とはいったいどうなのか」とおっしゃっていました。この言葉が胸に突き刺さりました。過疎地域では高齢者の1人暮らしや老夫妻での2人暮らしが多いと聞きます。これから地域のつながりが強くとも高齢者だけでは支い合えず、そこに住む医療従事者も厳しい状況になっていくと思います。

この研修を通して、地域医療に関わって、過疎地域に住む人々を支えていく看護師になりたい、という気持ちが芽生え強まりました。1人でも多くの方がこの研修に参加し、地域医療に関心を持ち、将来、過疎地域での医療を担う医療従事者が少しでも増えるといいなと心から思います。貴重な経験をさせていただき本当にありがとうございました。

〔体験談②〕

へき地医療のイメージは人それぞれだとは思いますが、私は暗く設備が不足しているイメージでした。確かに市内に比べれば不十分な所は多くありましたが、少しでも充実した医療が提供できるように、設備を工夫したり、他の施設や行政と連携するなどの懸命な努力を感じる事ができました。

さらに、医療従事者と患者さんの間には強い信頼関係があり、笑顔や活気がありました。想像では、知る事、感じる事ができなかった、多くの事を体験し、学ぶ事ができ、へき地医療のイメージが変わりました。へき地医療を学ぶ事で、どんなに医療設備が充実していても、患者さんを第一に考え、信頼関係がなければ、本当の医療、看護は提供できないのではないかと感じ、とても感慨深い研修になりました。

〔体験談③〕

地域の方へのインタビューや、医師や看護師とのディスカッションは、普通の実習では学ぶことができません。とても良い経験をした2日間でした。過疎地域における医療の現場を目で見て改めて感じる事ができました。

〔体験談④〕

私は、奥会津の地域医療にとっても興味があったので参加しました。訪問先の施設では、通院患者とのインタビューや食事介助、看護職者との意見交換など、貴重な体験や学びをさせていただきました。限られた設備の中で、患者さんを助ける医師や看護師を見て、とても輝いてみえました。今では、高齢の方が一人暮らし、または老夫婦世帯が多いのが現状で、病院や診療所では、人材が不足している現状であることも学びました。

今、私たちができることは、看護師になるための勉強はもちろんのこと、その奥会津の現状を他の地域に伝えていくことが大切なのではないかと思いました。これからは、誰でも信頼、安心される温かい心を持った看護師を目指して頑張っていきたいと思います。

2日間あっという間でしたが、貴重な体験をさせていただき、ありがとうございました。

〔体験談⑤〕

地域医療の現場を実際に見て、働いている人の思いや、住んでいる方々の思いを聞く機会をもつのは、自分にとってとても良いことだと思いました。看護師といっても保健師や助産師の資格をとって働いたり、専門看護師や認定看護師、診療看護師の資格をとって働くこともできます。どのような場所で働くかでも、求められるスキルや知識が違うので、なかなか進路を決められない私には、今回の体験がとても有意義なものになりました。地域医療に興味がある方だけでなく、私のように進路に悩んでいる方にも、参加してもらいたいです。

〔体験談⑥〕

研修に参加するまでは、地域医療という言葉は知っていてもイメージが漠然としていました。しかし、実際に施設を見学したり、看護職者や患者さんの話を聴き、患者さんにとって、病院や診療所の存在が大きいことなど、いろいろなことが分かりました。私も地域医療に貢献したいと強く思いました。

〔体験談⑦〕

今回の研修で、奥会津の地域医療について学ぶことができました。宮下病院や朝日診療所、老人ホーム桐寿苑を視察して、地域医療と患者との関わり方や、地域医療の現状を学ぶことができました。

診療所で患者さんにインタビューをしている時に、患者さんが「ここの歯科医は腕が良いから安心してここにかかれる」と言ったことが、とても印象に残りました。地域医療と地域住民のつながりが強いということを学びました。

〔体験談⑧〕

今回初めて参加してみて、地域医療への関心と知識を深めることができました。改めて看護師になりたいという気持ちを強くすることができました。また、楽しい懇談もあり、参加してよかったと思います。

〔体験談⑨〕

今回、患者さんと自分の大切な人と接するのと同じように接する事が、地域医療ではとても大切ということがわかりました。会津若松市にある、大きな病院等に比べて、今回行った三島町や只見町では医療従事者と患者さんの距離が近いです。看護師の方が患者さんと接するうちに、その患者さんの家族や、生活がわかってくるということをおっしゃっていました。また、住民の方は独居や二人暮らしの方、高齢世代の方が多く、そんな中でも住民の方は、お互いに支え合って生活していることもわかりました。

私は、住民の方にインタビューする中で意外に思ったことがありました。それは、住民の方が、不便とあまり思っていないことでした。その方は、診療所から15km程離れた所に住んでいるということでしたが、町内には、ゆきんこタクシーが時間ごとに走っていたり、知り合いの人の車に乗せてもらったりと手段が色々あり、また、坂下に行く時には姪っ子の車に乗せてもらったりと、人のつながりこそが地域の住民の生活を支えているということを、今回の研修で学びました。

平成28年度 看護学生のための
地域医療体験研修 報告集

平成28年10月31日 発行



福島県 会津保健福祉事務所
福島県 南会津保健福祉事務所
総務企画部 総務企画課
電話番号 0242-29-5506
F A X 0242-29-5509
aidu.hokenfukushi@pref.fukushima.lg.jp